



桂川っ子



筑豊地区PTA研修会で学んだこと

桂川町教育委員会

教育長 佐谷 千香子

1月18日、桂川小学校が担当で、コスモスコモンにおいて「筑豊地区PTA研修会」が行われました。参加者およそ700人の前で、元桂川中学校PTA会長の藤川須磨子さんが「桂川中学校がどのようなように立ち直ったか」を発表されました。最後の部分が大変心に残ったので、紹介致します。申し訳ないのですが、紙面の都合上、私なりに要約しております。

一、学校は校長が中心になり、その指導の下、全先生方が同じ方向で生徒指導してほしい。少々の批判は承知の上で、情報提供し家庭・地域との連携をとり、全体のまとめ役として指導力を発揮していただき、先生方は自信を持って生徒と接してほしいと思います。

二、家庭においては、子どもとの会話を心がけ、我が子を家庭で、学校で、外の遊

びの中でいろいろな角度から見て素直に受け止めてください。

三、学校や教師の批判をする前に、自分の子どもの姿を自分の目でしっかり確かめる努力を惜しまないで。批判があれば直接学校に出向くことが大切です。

四、人の話が聞ける子に導き、育てること。自分の意見が言えることも大事ですが、いろんな人の話を聞ける子は心豊かな子になれると思います。

最後に藤川さんはこのように結ばれました。

今回のことで、みんなが一つになれたと思えたのは、一つの問題に対し、それぞれが自分の立場で何が出来るか、素直な心で受け止めた事です。子どもたちの将来を考えた時、悪いことは悪いと毅然とした態度でいえる大人であらうとした事です。しかし、そのためには自分の襟も正さなければなりません。大人たちが変わった。そのことを子どもたちが受け止めた。そしてそれは大きな愛情の表れと双方が思えたことだと思います。

私はうなずくことが多く、こういう考えこそが子どもたちの健全育成につながると思います。

重点目標の達成状況は・・・

ー桂川小学校校長 本田 義隆ー

平成二十年度、八つの重点目標を掲げ、取り組んできました。
本校の職員による自己評価は左表のようになりました。

番号	項目	評点
1	あいさつ	60
2	聞き方	56
3	ラジオ体操	57
4	外遊び	69
5	姿勢の保持	53
6	家庭学習の習慣化	73
7	モジュール（音読）	53
8	活用型の学習	35

評点に目を向けると、もう少しです。しかし、年度当初と比較するとすべての項目で評点は高くなりました。子どもたちが「できる」ことが増えたと捉えています。

一方、子どもたちの自己評価では、4の外遊び以外の七項目は職員の評点よりも低くなっています。

あいさつをするようになった、しっかりと人の話が聞けるようになった、ラジオ体操がきちんとできるようになった、背すじがぴんと伸びるようになった、家で毎日勉強するようになった、読む力がついてきた、学習したことを使えるようになった等、成就感や達成感を十分に味わうまでには至りませんでした。

自分を客観的にみるメタ認知力。大切な力が子どもたちにあります。たりない自分を自覚して、できる自分、努力する自分、がまんする自分、成長する自分を感じてほしいと願います。

世界は、今、とても不安定。
こんなときこそ、目の前の小さな目標を達成して、自分に自信をつけてほしいものです。

平成二十一年度も頑張ります。

